

8. 地球温暖化など環境について

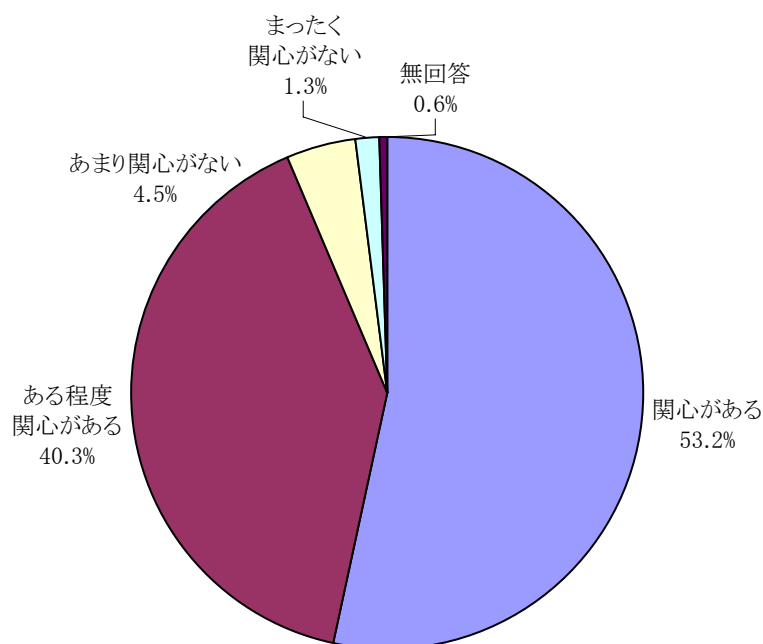
(1) 地球温暖化について、9割が「関心がある」

問32では、環境問題について、「地球温暖化について関心があるか」について質問した。「関心がある」が53.2%で5割を超えており、「ある程度関心がある」の40.3%を加えると、関心のある人が93.5%と圧倒的な関心の高さを示していた。

問32 あなたは地球温暖化について関心がありますか。(○は1つ)

	回答数	率
・ 関心がある	1257	53.2
・ ある程度関心がある	953	40.3
・ あまり関心がない	107	4.5
・ まったく関心がない	31	1.3
無回答	14	0.6

【問32】地球温暖化について
関心があるか (N=2362)



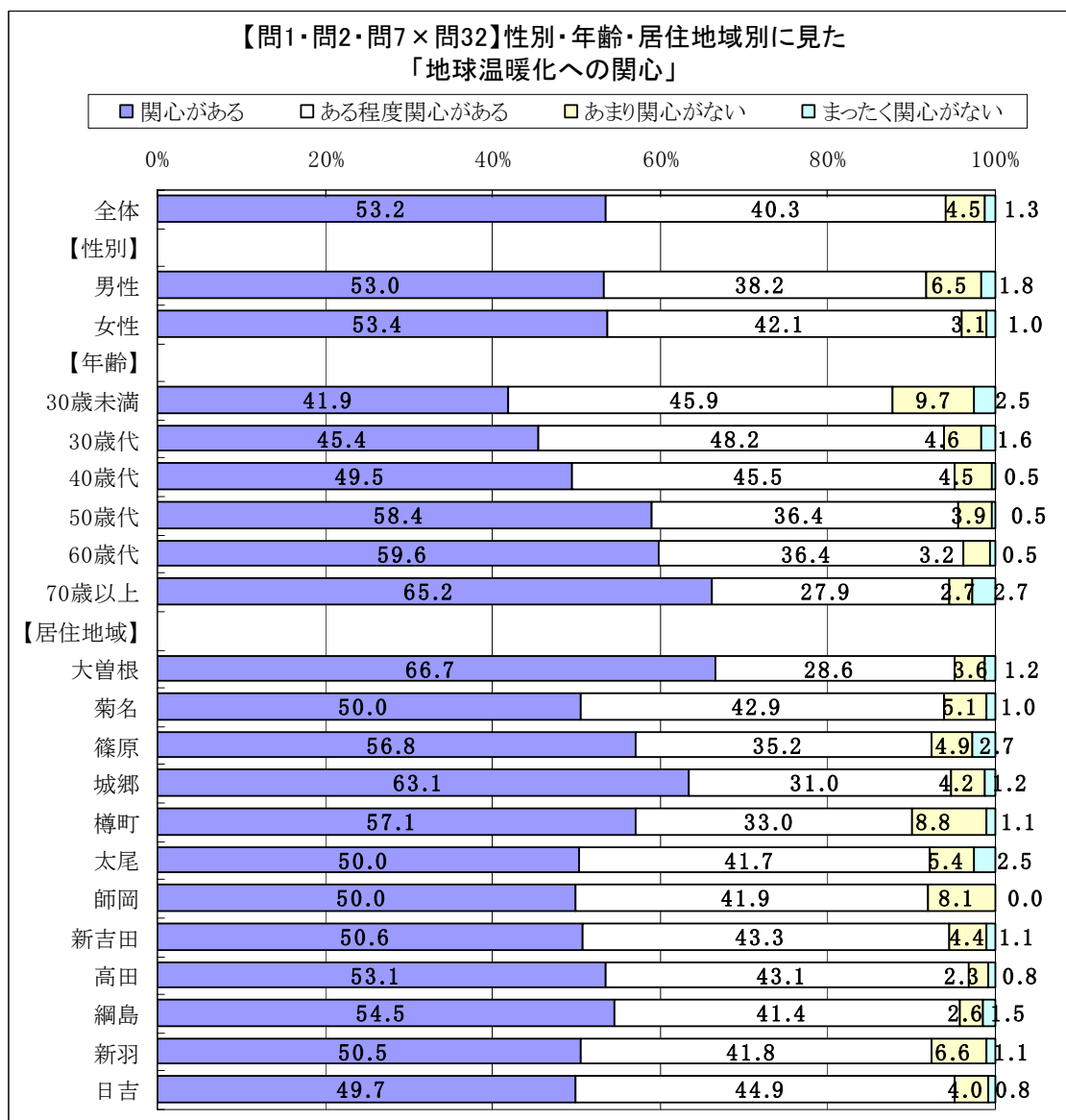
(2) 加齢にしたがい地球温暖化への関心が高まる

地球温暖化への関心について、回答者の属性別で見た。

性別では「男性」、「女性」ともほぼ同率であった。

年齢別で見ると、「関心がある」は「30歳未満」が41.9%で最も低く、年齢が高くなるにしたがって関心が高まり、「70歳以上」が65.2%と最も高くなっていた。

居住地別で見ても「大曾根」「城郷」で「関心がある」が66.7%と63.1%で高くなっているが、「ある程度関心がある」を含めるとほとんど差は見られなかった。



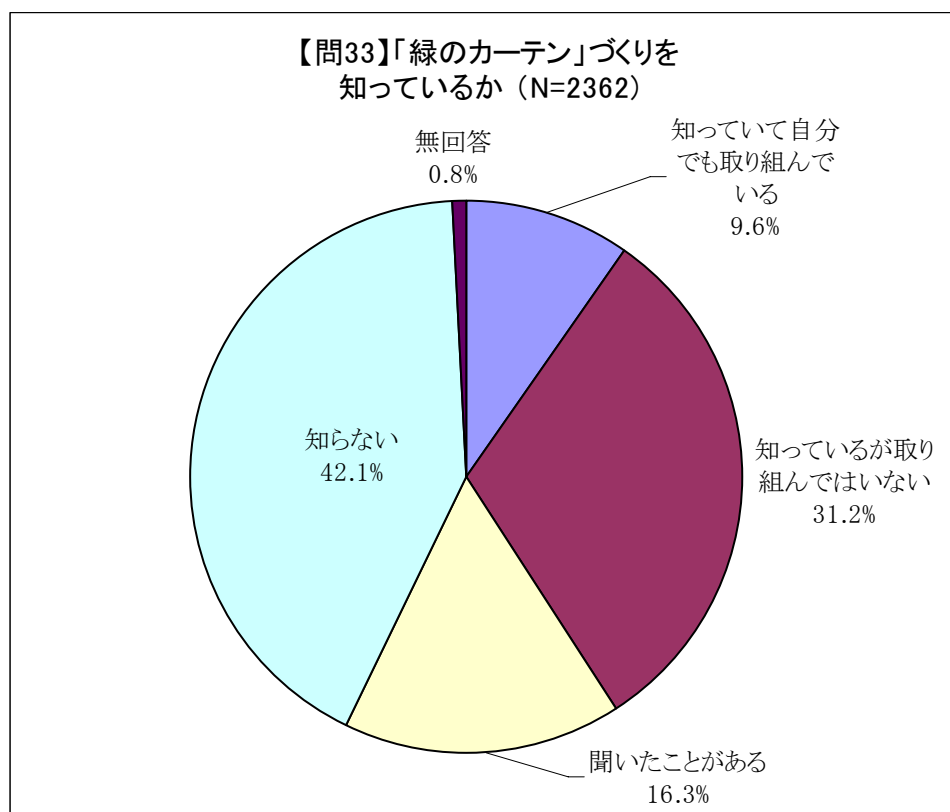
(3) 「緑のカーテン」づくり、「知っている」「知らない」ともに4割

問33では、港北区では地球温暖化対策と夏の暑さ対策のため、ゴーヤやアサガオなどのツル性植物を植え日当たりの良い窓を覆う「緑のカーテン」づくりを進めているが、この「緑のカーテン」について「知っているか」聞いてみた。

「知らない」が42.1%で最も多く、「知っているが取り組んでいない」が31.2%、「知っていて自分で取り組んでいる」が9.6%を合わせて「知っている」が40.8%と、「緑のカーテン」についての認知度は半々となっていた。

問33 港北区では地球温暖化対策と夏季の暑さ対策のために「緑のカーテン」づくり(夏の暑い時期に日当たりのよい窓をゴーヤやアサガオなどのツル性植物で覆うもの)を行っています。ご存知ですか。(○は1つ)

	回答数	率
・ 知っていて自分でも取り組んでいる	227	9.6
・ 知っているが取り組んではいない	736	31.2
・ 聞いたことがある	386	16.3
・ 知らない	994	42.1
無回答	19	0.8



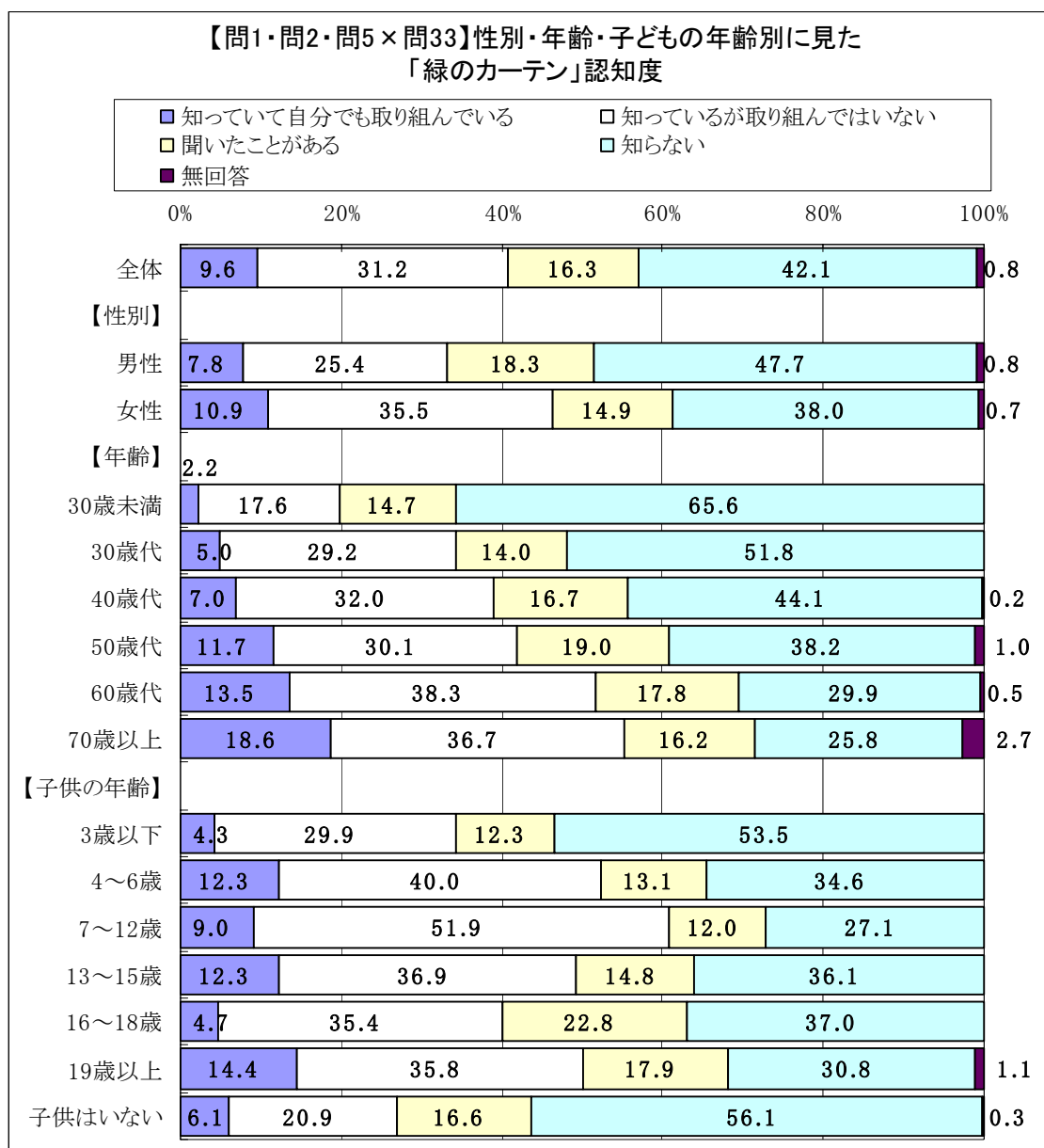
(4) 「緑のカーテン」は「女性」が「男性」より「知っている」

問 33 の「緑のカーテン」の認知度について、回答者の属性別で見た。

性別では、「女性」が「知っている自分でも取り組んでいる」、「知っているが取り組んではない」を合わせて、「男性」を 13 ポイント上回っていた。

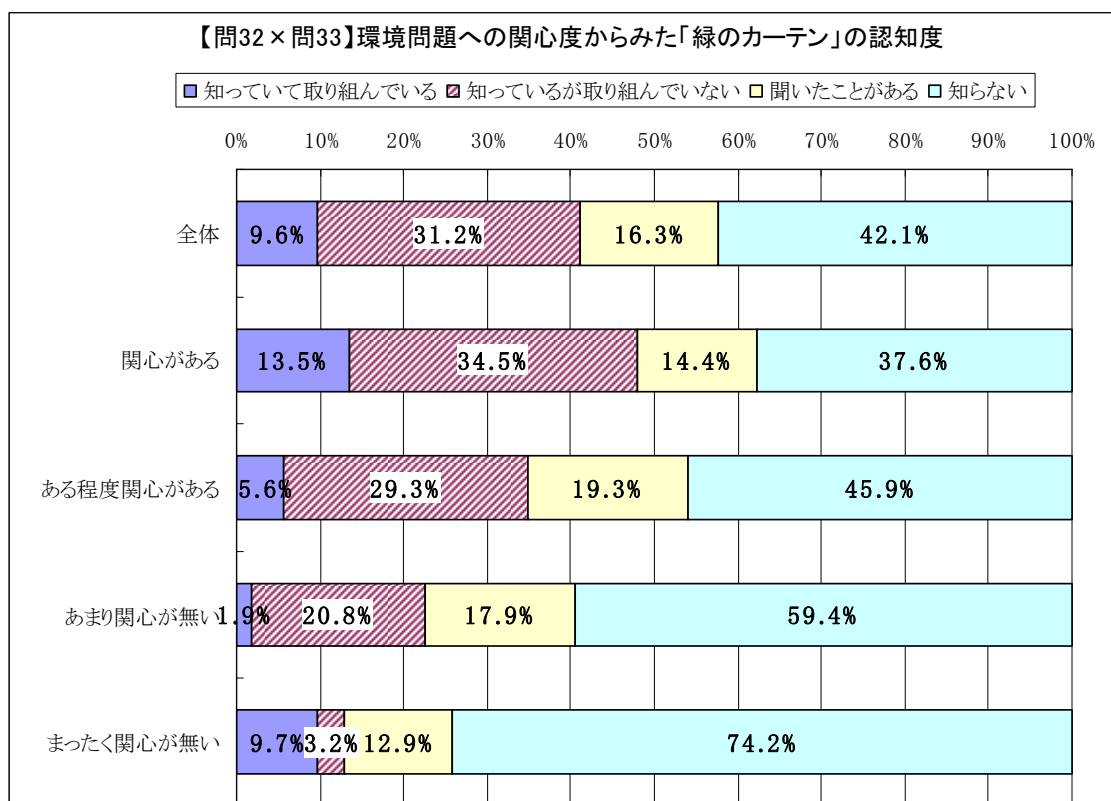
年齢別で見ると、両方合わせた「知っている」割合が、「30 歳未満」が最も低く、年齢が上がるにしたがって高くなり、「70 歳以上」で 55.3%と過半数を超えていた。

子どもの年齢別で見ると、両方合わせた「知っている」割合が「4～6 歳」、「7～12 歳」、が全体よりそれぞれ 11 ポイント、20 ポイントと幼児、小学生の年齢層で高く、「子どもはいない」では 30%に達していなかった。



(5) 「環境への関心」が高い人は、「緑のカーテン」の認知度が高い

「環境への関心度」と「緑のカーテン」の関連をみるためクロス集計を行った。その結果、環境への「関心がある」と答えた人は「緑のカーテン」を「知っていて取り組んでいる」、「知っているが取り組んでいない」を合わせた「知っている」割合が48%と半数近くに達している。環境への関心が低くなるにしたがって「緑のカーテン」を知らない割合が高くなっていった。



(6) 温暖化対策への取り組み「照明を消す」

「徒歩・自転車・公共交通の利用」「マイバッグ」

問 34 では、「温暖化対策として取り組んでいるもの」について、選択肢を 12 用意して複数回答をもとめた。

多い順に「冷暖房やテレビ、照明をこまめに消す」が 77.9%で最も多く、「出かける時は、徒歩・自転車・公共交通機関の利用を心がけている」が 50.7%、「買物時にはマイバッグ（買物袋）を利用している」が 49.1%と、約半数の人が取り組んでいると答えている。

続いて、「省エネルギー型の家電製品を利用している」が 35.2%、「ゴミを出さないことを心がけている」が 30.4%となっていた。以上が、上位 5 項目であった。

問34 あなたが温暖化対策として取り組んでいるものをお選び下さい。(○はいくつでも)

【回答数の多い順に並び替えている】	回答数	率
・ 冷暖房やテレビ、照明をこまめに消す	1,840	77.9
・ 出かける時は、徒歩・自転車・公共交通機関の利用を心がけている	1,197	50.7
・ 買物時にはマイバッグ(買物袋)を利用している	1,160	49.1
・ 省エネルギー型の家電製品を利用している	831	35.2
・ ゴミを出さないことを心がけている	718	30.4
・ 商品を購入する際には、環境に配慮したものを選んでいる	563	23.8
・ 自家用車を所有せず、移動手段は公共交通機関を利用している	551	23.3
・ 住居に断熱効果を高める仕様を取り込んでいる	261	11.0
・ 低公害、低燃費の自動車を所有している	255	10.8
・ 太陽熱温水器や太陽光発電を使用している	40	1.7
・ 特に何もしていない	121	5.1
・ その他	30	1.3
無回答	24	1.0

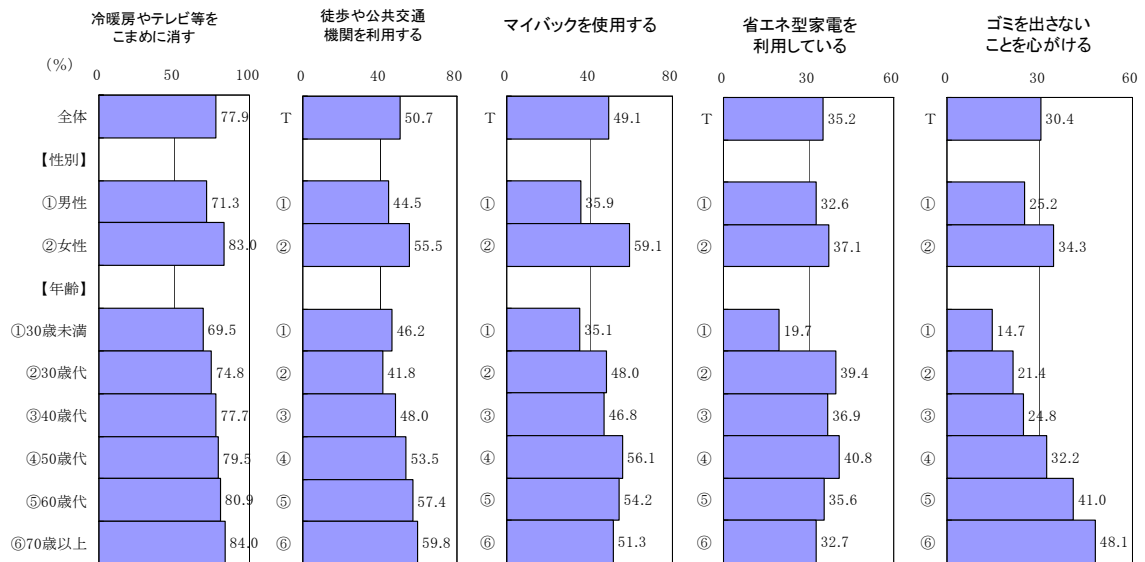
(7) 「温暖化対策」は「男性」より「女性」が取り組んでいる

問 34 の「温暖化対策として取り組んでいること」の上位 5 項目について、回答者の属性で見た。

性別では、各項目とも「女性」が「男性」を約 5～23 ポイント上回り、特に「買い物にマイバッグを利用する」が男性より 23 ポイント高くなっていた。

年齢別では、「電気をこまめに消す」、「ゴミを出さないよう心がける」については、年齢が上がるにしたがって「取り組んでいる」割合がそれぞれ高くなる傾向にあった。

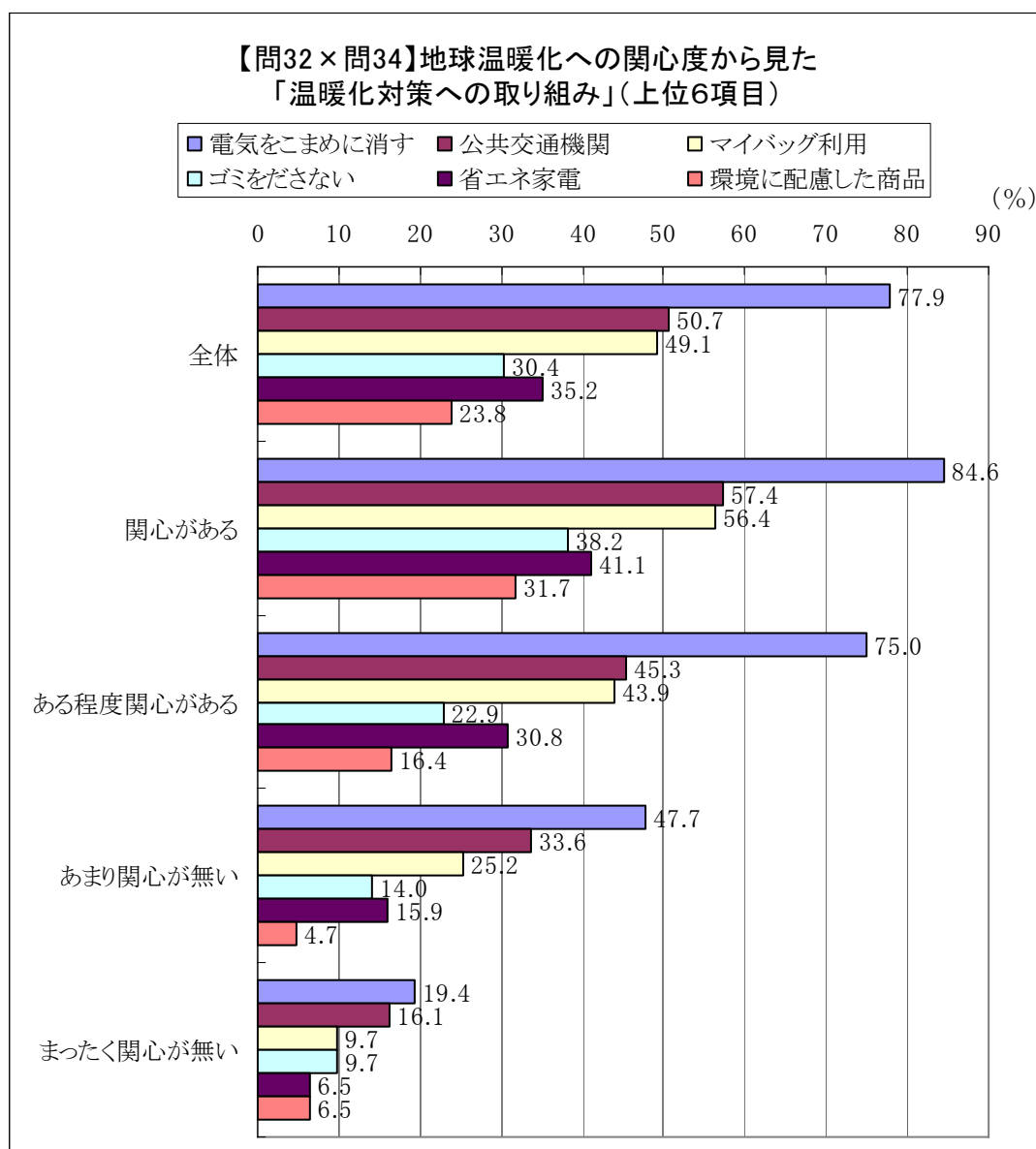
【問 1・問 2×問 34】性別・年齢別に見た「温暖化対策として取り組んでいること」
(上位 5 項目)



(8) 「温暖化対策への取り組み」は「地球温暖化への関心度」に比例する

「温暖化対策への取り組み」について「温暖化への関心度」を基準にしてみるために、問 32 と問 34 とのクロス集計を行った。

温暖化への「関心がある」人は、「電気をこまめに消す」、「公共交通機関を利用する」、「買い物にマイバッグを利用する」、「省エネの電化製品を利用」、「ごみを出さないようにする」、「環境に配慮した商品を買う」の 6 項目ともにそれぞれ一番高い「取り組み」状況を示していた。環境への関心の高さと、「取り組み」とは、比例していた。



(9) 環境活動への参加では「資源ごみの回収活動」が多いが
「参加したことはない」は全体の3分の2

問35では、「これまでにどのような環境活動に参加したことがあるか」について、選択肢を11用意して複数回答をもとめた。

「参加した」活動としては、「資源ごみの回収活動」が15.6%と最も多かったが、他の項目については、一けた台にとどまった。逆に「参加したことはない」が65.4%で、全体の約3分の2となっていた。

問35 あなたはこれまでにどのような環境活動に参加したことがありますか。
参加したことがある活動をお選び下さい。(○はいくつでも)

【回答数の多い順に並び替えている】

	回答数	率
・ 参加したことはない	1,544	65.4
・ 資源ごみの回収活動	368	15.6
・ 子どもたちに対する環境教育	113	4.8
・ ごみのリサイクル商品等の共同購入	89	3.8
・ 市や学校、企業などで実施する植樹などの緑化活動	88	3.7
・ 地域の樹林地を保全するための募金やボランティア活動等の 緑地保全活動	67	2.8
・ 地域住民に対する環境への関心を高める取り組み	63	2.7
・ 環境に配慮したまちづくり等への意見提案や参画	31	1.3
・ 水辺の環境調査	27	1.1
・ 環境に関する情報誌、チラシなどの発行	19	0.8
・ その他	35	1.5
無回答	206	8.7

(10) 「環境活動への参加」が高いのは、3世代家族と
小中高校生のいる家族

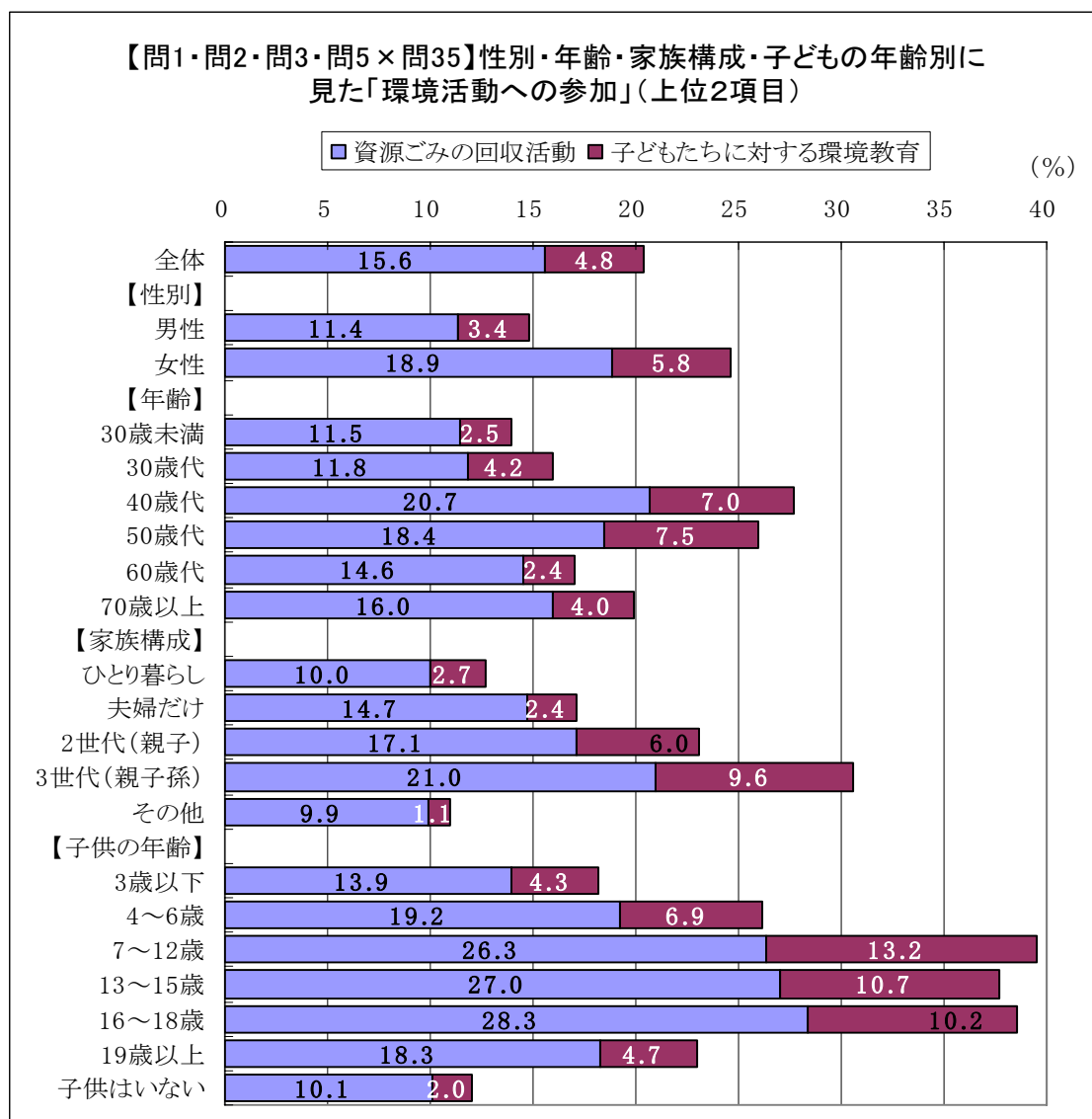
問35の「環境活動への参加」について、比較的多かった2項目（「資源ごみの回収活動」、
「子どもたちに対する環境教育」）について、回答者の属性で見た。

性別で見ると、「女性」がいずれの項目でも「男性」を上回っていた。

年齢別で見ると、「40歳代」が「資源ごみの回収活動」に20.7%で最も高く、「50歳代」が18.4%とこれに続いていた。

家族構成別で見ると、「3世代」がいずれの項目も最も高かった。

子どもの年齢別で見ると、「7～12歳」、「13～15歳」、「16～18歳」の小学生、中学生、高校生の子どもがいる層がいずれの項目も他よりも高かった。「子どもはいない」は、いずれも最も少なかった。



(11) 「農業を身近に感じている」が半数以上、「感じていない」が4割

問 36 では、区内には農地がまだ多くあり、地産地消ができる環境にあるが、「農業を身近に感じている」かどうかについて聞いた。「感じている」が 24.6%で、「少し感じている」が 31.7%であり、農業を身近に感じる人が合わせて 56.3%であった。

逆に「あまり感じていない」が 30.2%、「まったく感じていない」が 12.7%で、合わせて 42.9%が身近に「感じていない」と答えていた。

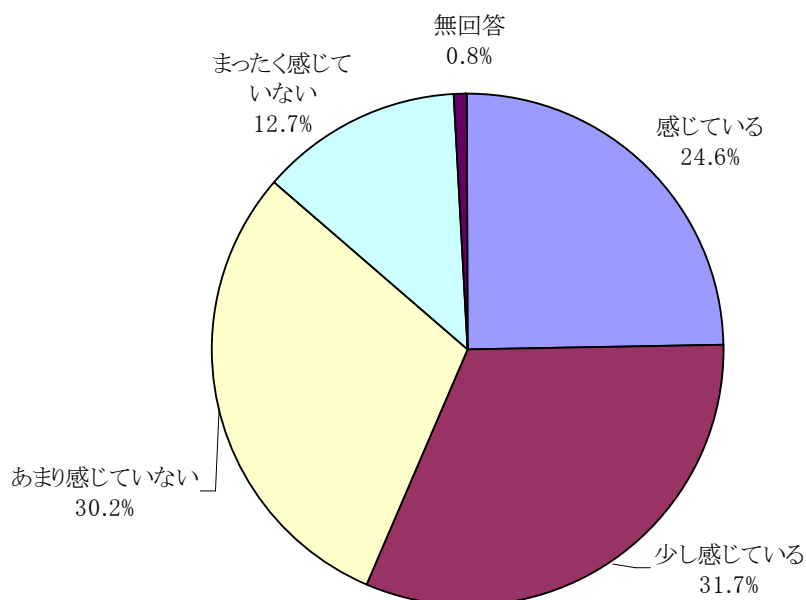
問36 港北区にはたくさんの農地があり、新鮮な野菜が栽培され地産地消(地域の生産物を地域で消費)ができる環境にあります。農業を身近に感じていますか。

(○は1つ)

- ・ 感じている
- ・ 少し感じている
- ・ あまり感じていない
- ・ まったく感じていない
- 無回答

回答数	率
581	24.6
749	31.7
713	30.2
300	12.7
19	0.8

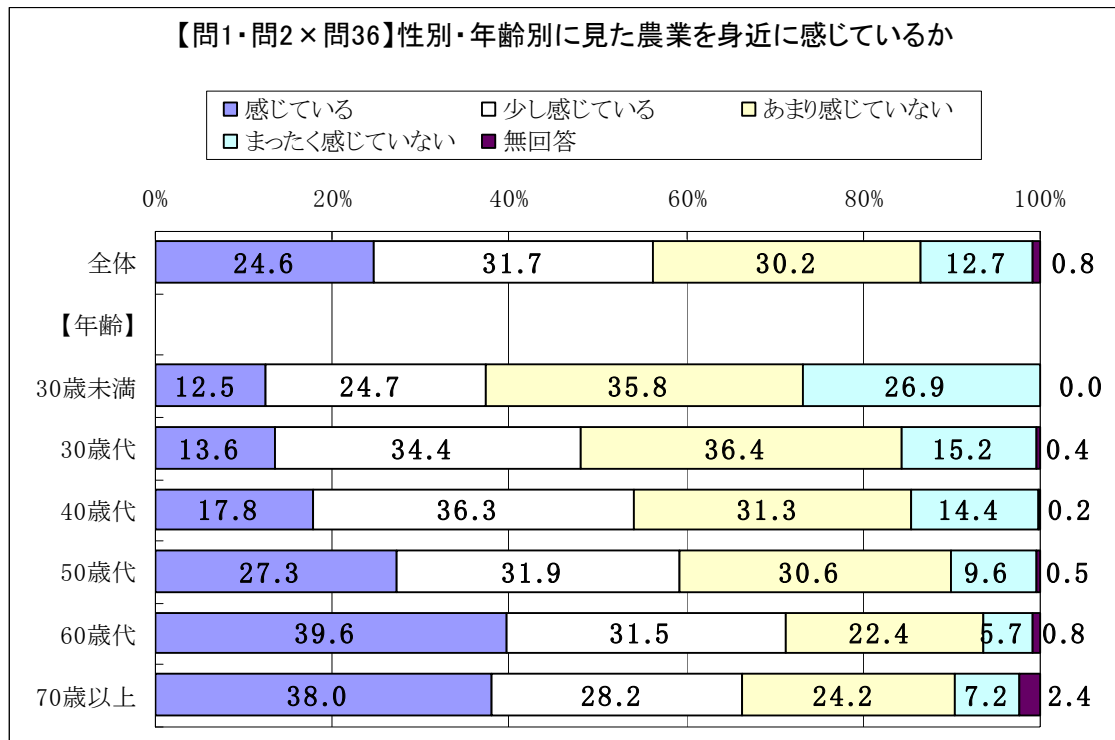
【問36】港北区において、農業を身近に感じるか
(N=2362)



(12) 加齢にしたがって高まる「農業を身近に感じている」割合

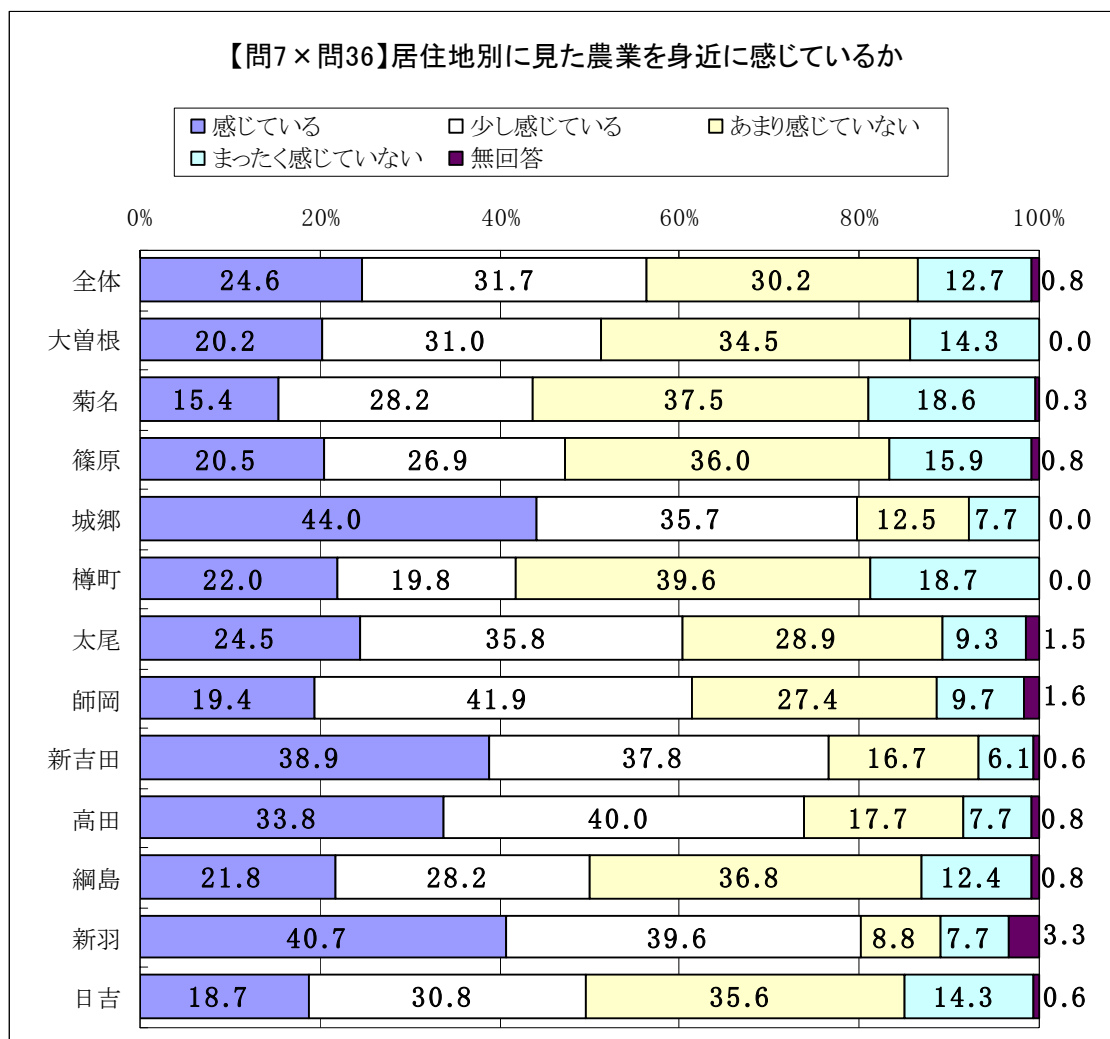
問 36 の「農業を身近に感じているか」について、回答者の属性別で見た。

年齢別で見ると、「30 歳未満」が「感じている」、「少し感じている」を合わせて 37.2 %で最も低く、「60 歳代」の 71.1%をピークに年齢が上がるにしたがって増加していく傾向が見られた。



(13) 「新羽」「城郷」「新吉田」「高田」で「農業を身近に感じている」

地域別に見ると、「新羽」80.3%、「城郷」79.7%、「新吉田」76.7%、「高田」73.8%、
などが「感じている」、「少し感じている」を合わせた割合が全体より高くなっていた。



(14) 「野菜の朝市・直売所」へは「行く・行きたい」が9割超

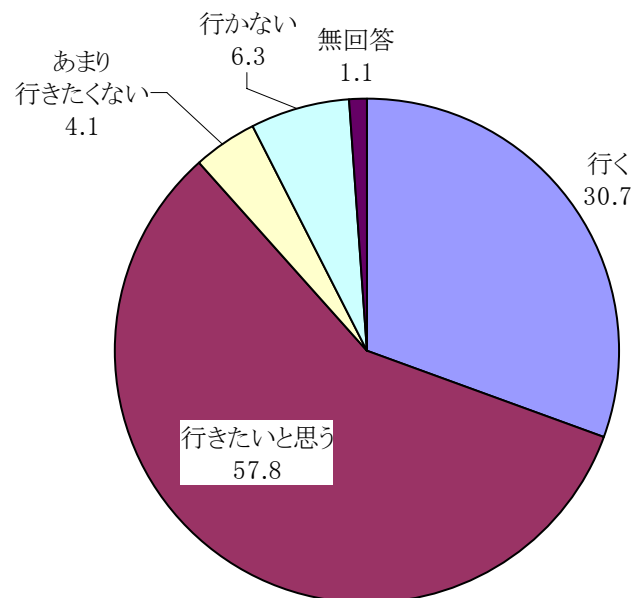
問 37 では、区内で生産者の顔が見える「野菜の朝市や直売所が開かれた場合に、行こうと思うか」聞いた。

「行く」が30.7%、「行きたいと思う」が57.8%で、合わせて約9割が行きたいと答えていた。

問37 食物の安全性が問題になっていますが、港北区産で生産者の顔が見える野菜の朝市や直売所が開かれた場合、行こうと思いますか。(〇は1つ)

	回答数	率
・ 行く	724	30.7
・ 行きたいと思う	1365	57.8
・ あまり行きたくない	98	4.1
・ 行かない	149	6.3
無回答	26	1.1

【Q37】港北区産で生産者の顔が見える野菜の朝市や直売所が開かれた場合、行こうと思うか (N=2362)



(15) 「朝市・直売所」に「行く」は「50 歳代」、「60 歳代」で高い

回答者の属性別で見ると、性別では、「女性」で「行く」が 33.9%と「男性」を7ポイント上回っていた。

年齢別で見ると、「50 歳代」、「60 歳代」が 39%前後で高く、「行く」、「行きたいと思う」を合わせると「30 歳未満」が全体よりかなり低く、「30 歳代」、「40 歳代」、「50 歳代」、「60 歳代」では9割前後と高かった。

